

反改憲運動通信

1部 200円

2005. 6. 19

No. 04

東京都千代田区三崎町 3-1-18 近江ビル4階
TEL : 03-5275-5989 / FAX : 03-3234-4118
E-Mail : han-kaiken@alt-movements.org
Website : <http://www.alt-movements.org/han-kaiken/>
年間定期購読料 4,000 円 (2005. 5~2006. 4)
郵便振替 00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信

小泉首相の「靖国」参拝は許されない！

小泉政権の傲慢で、あまりに恥知らずな態度に、韓国・中国を中心にアジアの怒りの声は噴出し、9月の国連創設60年に安保理常任理事国入りを、という野望は、まったく展望を失ってしまった。

事ここに至って、「国益」を考えて、小泉首相は靖国神社参拝をひかえるべきだという声が大きくなり、ついに、首相の靖国参拝を推進した最大のプレッシャー団体である日本遺族会の会長(元自民党幹事長)古賀誠が「近隣諸国に配慮し、理解してもらうことが必要」と発言し、それが大きくマスコミの話題になるまでになっている。

かつて、陸海軍省の管理下の軍事施設であり、あの植民地支配と侵略戦争を美化・正当化し、戦死者を「英霊」として讃え、さらに人々を戦争へと動員した天皇の神社、戦後もその政治的性格をそのまま持ち続けている靖国神社。「A級戦犯が合祀」されていようといなかろうと、そこへ首相が参拝することなど許されようがない。

小泉首相は、この間、個人(私)的信条からの参拝とくりかえしている。しかし、小泉は首相選のときに公約として8・15参拝をかけたのであり、昇殿し「内閣総理大臣」と記し、首相として参拝したと公言し続けていた。私的な参拝と解釈する予知はまったくない行動をくりかえしていたのだ。

この事実象徴される小泉の言動の支離滅裂さに、味方の靖国派も不安を感じだし、巨大な市場である中国との安定的関係を望む財界も、批判の声をあげだしているのだ。これが「『国益』を考えて参拝をひかえよ」の声の背景にある動きであろう。

韓国や中国の批判は根拠がないが、しかたがない、それなりに配慮したら、というのが多数派の声のようである。私たちは、こういう水準の「首相の靖国参拝反対」の論理にとどまっているわけにはいかない。

靖国参拝問題は、外交問題などではなく、内政問題であり、それへの外国からの介入は内政干渉だと小泉政権は強弁し続けている。しかし、1972年の日中国交回復時に、中国はかつての軍国主義者たちと日本の人民を区別し、さらに日本の戦後の支配者と軍国主義者を区別し、どのような巨額の請求があっても不思議ではない戦争賠償を放棄したのである。そうであるにもかかわらず、かつての軍国主義のリーダー(「A級戦犯」)を「英霊」として讃え、侵略戦争を「聖戦」とする靖国神社へ首相が参拝することで、かつての軍国主義のリーダーと、自分たちを一体化してみせて平然としている。中国政府(民衆はもちろん)が怒るのは、あたりまえである。国交回復の前提条件を日本政府は足蹴にしているのだから。これが単なる内政問題であるわけがないではないか。くりかえすが、中国が「A級戦犯合祀」問題に、こだわり、抗議するのは、まったくあたりまえのことなのである。かつての被侵略地の人々の、首相の靖国参拝への怒りは、そういった点をふまえれば、十二分に根拠のあるものなのだ。「反日暴動」を許すな！ というナショナリズムの心情にまきこまれて、歴史的な事実を正確に見る視点を失ってはならない。

もう一点、マスコミが触れていないことがある。小泉首相の靖国参拝は、憲法20条(信教の自由)に反するものだという判決が、2004年1月に福岡地方裁判所で出されている。小泉は、この判決後、急に私的参拝だと言いだし、なんで違憲なのか「わかりませんね」とくりかえしたのだ。憲法を遵守する義務がある首相らは、当然、司法の違憲判決を無視することなど許されないはずだ。この判決はハッキリと参拝をストップさせよと要求しているのだ。

憲法を無視している小泉首相の態度は、アジアの人々に対してのみ暴力的なわけではない。私たちに対してもまた、そうなのである。

(事務局/天野恵一)

◆せっかくこのまま何もしなければ消滅するはずの天皇制を、存続するために躍起になっている人たちがいる。ほぼ月イチのペースで開かれている「皇室典範に関する有識者会議」という会は、天皇制の存続の是非を問う論議ではなく、どうやってそれを維持しているのか、つまりどうやって女性天皇を認めているのか、というものだ。◆マスコミの報道や世論調査などでも、一部の守旧派を除いては女性天皇容認派が圧倒的に多い。そのほとんどが男女平等論をもって容認する声が

憲法悖論

多いのだけど、ほんとにそうか？ 女性天皇になったって世の中にいくらでもある不平等、差別がなくなるとは思えない。男であろうが女であろうが、天皇なんていう特権的な身分の権力の元締めみたいな座についている人がいること自体が、決定的な差別の根源なんだから。◆自治体などで「エコ」と名前がついているものには気をつけたほうがいいよ、という話を聞いたことがある。きれいそうに聞こえる言葉の裏側にある本質を見据える目を、養っていかなきゃ、ね。(玉子)

報告●静岡県藤枝市での5・3一憲法に学ぶ集い

5月3日、静岡県藤枝市における「憲法に学ぶ集い」は参加者220名。女子高校生による憲法前文の朗読から始まった。メインは中山千夏さんの講演「憲法、ここが好き」である。千夏さんのスピーチはさわやかで明快だった。「女も男もおんなでいこう」「非暴力社会を産み出そう」の“志”で「おんな組いのち」という“組”を立ちあげたという。

女にメシや子育てを押しつけて、男は鉄砲をかついでどこかへ行ってしまうのはおかしい。男らしい男というのはよくない。男はすべて女々しくなくてはいけない。男社会である限り戦争はなくなる。女に合わせた社会を作っていけば戦争にならない。今「おんな的価値」を見直すべきだ、という。

また憲法1条に関して、あの一家には人権を与えるべきだ。あの一家は24条の恩恵も受けていない。そういう一家が象徴というのはよくない、という。

例年の学者による講演と違って、男と女の視点からの戦争と平和へのアプローチは斬新だった。戦争のできる国づくりから、更に戦争のできるヒトづくりへ、そして24条までがとりざたされてきた今、タイムリーな講演内容であった。

主催した「志太・憲法を大切にしよう会」は藤枝市、焼津市の普通の市民10人ほどからなる。6年前、憲法調査会設置という危機の中で生まれた素人のグループである。5月は平

和を、11月3日は人権をテーマに毎年集いを開いてきた。資金も会費もなく、毎回の参加者からのカンパに依存している。

会では、集いの宣伝に最も力を入れる。前回の参加者へ手紙を書くこと、市公報や新聞への掲載、駅頭でのチラシ撒き、公民館やスーパー等へのチラシ配布などである。幸い毎回楽しみに参加される市民もでてきている。

昨春の集いでは「ここでは盛り上がりつつも、一般人の関心は低い、町内会、御近所のレベルの雑談でも憲法の話ができなきゃウソ」との意見が出された。そこで会では世間によくある平和主義への素朴な疑問をひろい集めて皆で回答を討議して、小冊子を自作した。『QアンドA——9条なくしていいですか』(30ページ、100円)である。各グループの学習会などでも使われて好評である。また私達の活動のささやかな資金にもなっている。

関心の低い人々にどう関心を持ってもらうか、若い人の参加をどう増やしていくか、そんな課題を、各地で活動されているみなさんの経験とお知恵を拝借しつつ解決に向けて進んでいきたいと思います。

(塚本清一／志太・憲法を大切にしよう会)

報告●平和基本法テーマにシンポジウム開催

市民版憲法調査会とフォーラム平和・人権・環境は5月3日、東京千代田区の憲政記念館で、「施行58周年憲法記念日シンポジウム・憲法と平和を考える」を開催し、700人が参加した。

市民版憲法調査会は、五十嵐敬喜さん(法政大学教授)などが呼びかけ人となって、2002年に発足。憲法論議を国会まかせにせず、草の根から無数の憲法論議を巻き起こして、自分たちの言語で体系的な新憲法を作ろうとをめざしている。フォーラム平和・人権・環境は、労働組合や民主団体が作る平和運動の全国組織で、毎年5月3日には憲法記念日集会を開催している。

今回のシンポジウムは3部構成で行われた。第1部は、五十嵐敬喜さんの講演「『アジア憲法』策定を構想するために」と、枝野幸男さん(衆議院議員・民主党)の講演「憲法改正と国民投票」。第2部はパネルディスカッション「『平和基本法』を再考する」で、パネリストは前田哲男さん(東京国際大学教授)、平岡秀夫さん(衆議院議員・民主党)、阿部知子さん(衆議院議員・社民党)。第3部はパネルディスカッション「平和を希求する道を探るために」で、パネリストは高野孟さん(インサイダー編集長)、筑紫哲也さん(ジャーナリスト)、斉藤駿さん(カタログハウス代表)、菅直人さん(衆議院議員・民主党)。

パネルディスカッションの中で平岡秀夫さんは、「9条に関する現行解釈を確定させ、必要最小限の自衛力と自衛権行

使の限界、国連を中心とした国際社会への協力を明らかにすること」を理念とした「安全保障基本法(私案)」を発表した。

前田哲男さんは「平和基本法」を、「非核3原則・武器輸出3原則・宇宙の平和利用など、護憲世論が勝ち取った政策を基本法に明文化し、政府の恣意的解釈を許さないものだ」とした。また「日本の進むべき道は米国の単独主義への追従ではなく、欧州の『共通の安全保障』、そこからさらに進んで軍事的要素や国籍・国境を越えた『人間の安全保障』だ」とのべた。

阿部知子さんは医師としての経験から、「生命はどう守られ、育まれるか、改憲に反対するには生命のテーマに引き戻さなければいけない」と語った。国際協力については、「国際社会に飛ぶ前にアジアの問題を考えることが大切ではないか」と指摘した。

会場からの「平和基本法は9条をなし崩しにするものではないか」という質問に対して、平岡さんは、「憲法9条の理念や理想に、日本のありかたを近づけていく努力だ」と答えた。また前田哲男さんは、「安全保障政策を持たないままに政権に加わることの危険性を認識すべきだ。違憲の固まりを直ぐに無くすることができない以上、自衛隊を縮小していく、現実からはじめる政策が必要ではないか」とのべた。

今後も市民の立場からの憲法論議を積極的に行っていくことを確認して、シンポジウムは終了した。

(八木隆次／フォーラム平和・人権・環境)

読者の声： 大変多くの方々から、購読の申し込みに添えて、様々なご意見をお寄せいただいています。その一部を掲載させていただきます。

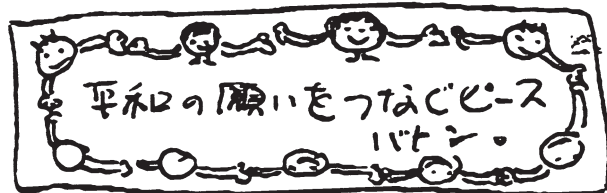
“憲法9条は私達のいのちです。平和の願いを世界に広げたい!!”という想いから、平和をつなぐピースバトンを思いつきました。

名前のとおり、平和の想いを書いたカードをバトンタッチしてゆくものです。まず1人が10枚を10人に手わたします。受け取った10人は、また10人に手わたします。10人+10人+10人+10人……。

次々につないでいつて大きな輪になるというもの。つなげるためにはどういったものがあるのだろう。

*誰にでも分かりやすい。*もらいやすく、手わたししやすいもの。

*やさしく、わかりやすい文章、やさしくかわいらしいイラスト。*大きさはハガキ大くらい。



こういった
→ 感じのカード

内容は考案中です。ふっと思いついたことなので、どこまでやれるかわからないけれど……。やってみます。
P. S. 100人いれば10枚×100人=1000人 1000人+1000人+1000人…… すげい!!



おじいちゃん、おばあちゃんから若者まで次々と平和の想いがつながります。(ペンネーム M)

もうひとつの声

読者の声への投稿ではなく、0号の通信(見本)を送ったら、ニュースは以後はいらない、0号も送りがえします、という手紙が届いた。そこに、少し気持ちが動かされることが書かれていたので、紹介する。

〈八十を超えている夫は戦争中の話は一切せず、そういうドラマもニュースも心が痛んで涙を流すので一切見ることはしない〉、残りの時間を〈心を休ませよう〉に過ごしたいので、ニュース0号も返送します、というのだ。そういう人もいるのだ——そうした存在も忘れずに、この通信を編集し続けたい、そう思った。(事務局)

事務局
から～

◆『「反改憲」運動通信』を、ぜひ定期購読してください! ①郵送、②Fax、③電子メールに添付のPDFファイル——のいずれかでお送りします。お申し込みの際に、どの方法での購読希望かについて、必ず明記してください。

◆年間定期購読(2005年5月～2006年4月/月2回発行/24号分)費は4000円です。

◆定期購読費は郵便振替で▶口座番号:00190-7-11558/加入者名:「反改憲」運動情報通信

★「読者の声」を募集します! あなたの「声」をお寄せください。100字前後でお願いいたします。

★事務局から2★——郵送で購読していただいている皆さんへ:郵便振替用紙は定期購読の入金を確認させていただいた方も含めて、全ての方への郵送に同封させていただいています。ご了承ください。

★事務局から3★——『「反改憲」運動通信」事務局(事務所)にはスタッフが常駐していません。事務局への連絡や購読申込み等の際はファクシミリか電子メール、お葉書が確実です。申し訳ありません。

報告●6・8「改憲のための国民投票法案反対」院内集会に100人

6月8日、衆院第二議員会館で「憲法改悪のための国民投票法案反対 市民と国会議員の院内集会」が開催され、100人が集まった。主催は「憲法」を愛する女性ネット、憲法を生かす会、市民憲法調査会、平和憲法21世紀の会、全労協、キリスト者平和ネット、宗教者平和ネット、許すな！憲法改悪・市民連絡会で作る憲法改悪反対運動共同会議。

最初に、参加した国会議員が発言した。沖縄選出の参院議員・糸数慶子さん（無所属）は「沖縄は平和憲法を獲得するために本土復帰闘争を闘ったが、さらなる基地負担を求める動きが強まっている」と訴えた。社民党の土井たか子衆院議員は、「改憲派は国のために国民はあると主張しているが、彼らにとって国すなわち自分、国家権力すなわち自分なのだ」と批判した。喜納昌吉さん（民主党・参院議員）は「日米同盟のトゲが沖縄に突き刺さっている。沖縄は日米安保のゴミ箱になっている。平和憲法をもっと深めていくことが必要だ。世界の中で徹底して武力を放棄した国があってもいい」と主張した。共産党の衆院議員・山口富男さんは、国民投票法案をめぐる国会情勢について「衆参両院の憲法調査会最終報告書は、憲法調査会を衣替えして法律の起案も審議もできる委員会にしようと述べている。いま準備されている国民投票法案とは九条を打ち壊すための法案だ。しかし、憲法調査会の衣替えのメドはまだ立っていない」と説明した。

社民党党首の福島瑞穂参院議員は「大幅な会期延長が予定されており、国会法改悪や国民投票法案も予断を許さない情

勢になっている。その時間を使って介護保険法改悪、共謀罪新設も通る可能性がある」と語った。議員発言の途中で、国民投票法案に反対する署名が27,179筆、参加した国会議員に手渡された。

次に、国民投票法案をメディア規制の観点から批判する報告を毎日新聞記者の臺宏士さんが行った。臺さんは、次のように語った。

「国民投票法案では、投票結果予想を公表するとか、虚偽の事実を記載してはならないとか、投票結果に影響を及ぼす目的で記事を掲載してはならないとしている。この規定は公選法をほぼそっくり援用したものだが、公選法では『報道の自由を妨げるものではない』と明記されていることが与党の国民投票法案ではぬけている」。

「『公正』という言葉は、安倍自民党幹事長代理がNHKの女性国際戦犯法廷の報道番組に『公正・公平な報道を』と述べたことを見ても、権力者の都合の良ように使われる。権力は露骨な形ではなくメディアの自主規制を求めるものだ」。「一度作られた法律は一人歩きする。今やマンションへのビラまきが逮捕・起訴される時代だ。憲法9条だけではなく、21条（集会・結社・表現の自由と通信の秘密）も危機にさらされていることに、ぜひ注目してほしい」。

最後に平和フォーラムの福山事務局長とGPPAC（武力紛争予防のためのグローバルパートナーシップ）の松村さんが連帯のあいさつを行った。（事務局／国富建治）

運動のメディア……自己紹介

「市民の意見30の会・東京」が発行する隔月間の機関誌『市民の意見30の会・東京ニュース』はありがたいことに、ここ1年ほど、読者が激増といってもいいほどの増加が続いている。この会が力を注いできたイラク派兵反対と改憲阻止の何度かの意見広告運動が、これまで手の届いていなかった潜在的な反戦派の人びととつながることを可能にしたためと、何よりも、急激に進む日本の戦争国家化への危機感のひろがりのせいであろう。有料発行部数は、全国で千数百となり、今、二千の読者という長年の希望も不可能ではなくなりつつある。昨年からは、B5版36ページの『ニュース』の表紙は、金子静枝さんのフルカラーの美しい切り絵で毎号飾られるようになり、好評である。

編集内容は、特定の課題に限定されることなく、広く政治と生活に関わるテーマをとりあげ、広範な執筆者を得て分析や解説を掲げているし、反戦詩や書評など、文化面も扱う。（最近数号の執筆者では、鶴見俊輔、澤地久枝、なだいなだ、小田実、鎌田慧、水島朝穂、鵜飼哲、花崎皋平、武藤一羊、山本義隆、酒井隆史、道場親信、中山千夏さんらの名が並んでいる。）「反戦運動の総合雑誌」という評も聞かされた。必ずしも褒め言葉とは受け取れない。ダイナミックな運動の実際と

離れないように留意せねばならないと自戒している。

本誌は、これまで、イラク反戦運動や憲法改悪阻止の運動などの内部に生じているさまざまな実践的問題点を抉り出し、かなり辛口の批判や提言も掲載して話題を呼んでおり、いくつかの論争も意識的に掲載してきた。これは今後も努力して続けてゆきたい。運動の現場で実践している人びとの経験の手記なども増やしてゆきたい。

購読料は年間2500円だが、65歳以上や、障害者、長期療養者などは2000円。最新号を除いて、すべてホームページ上でも読むことができる。（市民の意見30の会・東京 事務局）

◆連絡先：151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-29-12-305 市民の意見30の会・東京

電話&FAX：03-3423-0185

振替：00120-9-359506



▶反改憲◀ ニュースクリップ 2005年 5月28日～6月14日

【5月28日】〈安部幹事長靖国参拝を当然視〉自民安部幹事長が首相の靖国参拝について「国に命をささげた人のため参拝するのは当然」と発言。

【5月29日】〈イラクで掃討作戦〉イラク移行政府はバクダットから武装勢力を一掃する「稲妻作戦」を開始。同日25名が死亡。4月末からの死亡者は600名を超える。〈日韓中合作の歴史副教材発売〉日韓中の歴史研究者が共同編集した副教材「未来をひらく歴史」（高文研）が発売。3カ国の学者が編集。〈EU憲法否決〉欧州連合憲法条約のフランス国民投票で反対が55%を占め、否決。EU統合が自由競争や経済効率をすすめるとの批判が世論を動かす。〈靖国参拝中止が過半数〉朝日の世論調査で、首相の靖国参拝に反対が49%になり、賛成の39%を上回る。

【5月30日】〈東京都副知事更迭〉東京都の石原知事が浜渦副知事更迭。浜渦副知事は都議会百条委で「偽証」と認定され、辞職を求められていた。浜渦は石原が衆院議員時代から秘書を務めた側近中の側近。知事に代わり政策や人事を独裁的に運営してきた。〈住基ネットに違憲判決〉金沢地裁が住民基本台帳ネットワークについて「プライバシー保護を保障した憲法13条違反」本人が同意していない場合違憲になると判断。

【5月31日】〈9条の会がドキュメンタリー作成〉「9条の会」の活動を追ったドキュメンタリー映画が完成。「9nine—憲法9条は訴える!」。問い合わせは「9条を守ろう! 映像プロジェクト」（電話 03-3511-7031）。

【6月1日】〈昭和天皇が米重視の発言〉昭和天皇が「米軍の駐留が必要」など、日米安保を重視する政治的発言を繰り返していたのが明らかに。〈衆院議長ら靖国参拝「慎重に」〉河野衆院議長が海部、宮沢、橋本、村山、森首相経験者と会談。「首相の靖国参拝は慎重にも慎重を重ねるべき」で一致。翌日には中曽根元首相も参拝中止を求める。

【6月2日】〈参拝は私的」と強弁〉小泉首相が「私の信条から発する参拝に、他の国は干渉すべきでない」と述べ、靖国参拝継続を宣言。

【6月4日】〈自衛隊の海外展開〉大野防衛庁長官がアジア安全保障会議で演説。「平和愛好国家だけでなく平和支援国家になるべき」と自衛隊を海外活用する方針を強調し、①災害救援、②海上の安全保障、③人道復興支援を提唱。日本が配備を決めたミサイル防衛については「純粋に防御的だ」と言った。

【6月6日】〈外相が中韓への「ごますり」批判〉町村外相が「無用な『ごますり』がいるから日中関係がおかしくなる。率直に言わないと友好関係にならない」と発言。外相は「ごますり」の名は挙げなかったが、「どうしてそこまで、中国要人にへりくだらないといけないのか」と批判した。教科書問題

も「一部の極めて左がかった学者やジャーナリストが韓国に行って『今度こんな教科書が出る。問題ですよ』と言う」からだと言断言。「教科書を執筆しているのは、左がかった人たち。ゴルフで言えば左OBすれすれの教科書を書くのだから、軍国主義を賛美するわけがない」とも述べた。

【6月7日】〈日本安保理入りは暗礁に〉ライス米務長官が町村外相に対し、安保理拡大の決議に現状では賛成できないと表明。これで日本の安保理入りは暗礁に。〈朝鮮半島有事〉日本政府が、米国の北朝鮮侵攻に際して日本が攻撃される可能性があるとし対応措置を有事法制の一環として国民保護法制に反映させるよう促す。〈「中韓国は理解している」?〉河野洋平衆院議長が小泉首相に対して参拝自粛を求めたが、首相はそれにたいし「中韓は理解している」と応えた。また安部幹事長らは河野議長の発言を「内閣への干渉である」と非難した。――閣僚の強硬発言が突出し、与党内でも温度差がひらく構図に。

【6月8日】〈国民投票法案今国会断念〉自民党憲法調査会長が国民投票法案の今国会提出を断念し次期臨時国会以降に先送りの方針を明らかに。

【6月11日】〈遺族会も「配慮が必要」〉日本遺族会が会合をひらき、会長の古賀自民党元幹事長は「首相の参拝は遺族会の悲願だが、英霊が静かに休まることも大事。近隣諸国に配慮し、理解が大事。外国にもおもしろいやりが必要」と発言。〈従軍慰安婦は「なかった」〉中山文科大臣が「そもそも当時存在しなかった従軍慰安婦という言葉が教科書からなくなったのはよかった」と発言。〈憲法調査会ふたたび始動へ〉衆院憲法調査会の船田元自民党筆頭幹事が憲法調査会の後継機関について、週明け以降議論が本格化するとの見通しを示す。また民主党枝野幸男憲法調査会長は「現行の調査会に国民投票法案の審議権を加えた方がよい」と発言。

【6月12日】〈日の丸・君が代訴訟〉卒業式や入学式で君が代を斉唱する際に義務がない確認を求める訴訟を、神奈川県教職員有志が県を相手取って起こすことに。同県教委は君が代斉唱時に教職員の起立を求める通知出しており、有志は「強制は憲法違反」と主張している。同県教委は今春の卒業式と入学式で延べ116人が起立しなかったとの調査結果を発表しており、繰り返す場合には処分があることを示唆している。

【6月13日】〈中山発言に中韓反発〉中山文科相の「従軍慰安婦はなかった」発言に対して、韓国与党ウリ党、野党のハンナラ党ともに「怒りを禁じ得ない」「即時謝罪を」と批判。また中国も「強烈な非難」を表明した。また国内でも、奥田経団連会長が「近隣諸国への配慮が必要」「『もう済んだこと』というのは言い過ぎだ」と発言した。

【6月14日】〈台湾先住民が右翼の妨害で靖国訪問を断念〉小泉純一郎首相が靖国神社を参拝したのは違憲で精神的苦痛を受けたとして、国などに損害賠償を求めている台湾先住民ら約60人が戦死した台湾先住民の合祀取り消しを求め靖国神社を訪れようとしたが、右翼が神社の周囲を占拠したとして、訪問を断念した。住民らは「先祖の霊はわたしたちの方法で祭る。日本人がするのは間違い」と話し、合祀を取り消すよう求めた。

私も一言 ④

小倉利丸 (ピープルズ・プラン研究所共同代表)

改憲がすでに具体的な日程に上っているにもかかわらず、改憲の議論が実際に国会の表舞台で行われることはまれなようで報道も極めてわずかだ。

郵政民営化をめぐる与党内部の諍いといったくだらない利権争いではかなり熱くなる議員たちの姿は、憲法がこの国でどのような処遇を受けているかを象徴しているともいえる。この郵政民営化の猿芝居は思わぬやばい結果を招くかもしれないと思う。猿芝居に「国民」やマスコミの目を引きつけ、その裏で肝心の改憲策動を着々と進めるというシナリオが用意されているのでは？ ということをお願いしたいのではない。猿芝居であることは皆知っており、うんざりしている。小泉に

賛成であろうが反対であろうが、この猿芝居の役者たちが示しているのは、戦後の既成保守はもはや「終わった」ということである。彼らに国家をゆだねられない、という感覚を持つ人々が確実に増えているのではないか。

民主党が人気ないのは、アメリカ主義者のネオリベラリストが役立たずの大手労組の官僚ばかりだからだろう。

つまり、「こうなったら、やっぱ、反米ナショナリズムでしょ」みたいな若い世代が確実に台頭しつつあるのではないかと思うのだ。こうした反米ナショナリストの若い世代が改憲にどのような影響力をもっているかは不透明だが、少数とはいえ保守・右翼反対派としてのこの層を軽視してはならない。

ポスト冷戦の左翼経験のない政治青年の世代が20代、30代を占めている。彼らの選択肢はこれ以外には考えにくい。

悔しい話だが、「経験としての左翼」っていうのを創っていかないとマジやばくない？ みたいなところにわたしたちはいる。

しかし左翼は右翼と違って伝統芸は使わない。改憲の破綻のなかから、60年代左翼には理解できない新しい左翼は果たして登場できるのだろうか。登場して欲しい!!

集会・行動情報 6/23~7/3

▶ **6/23 (木) 6. 23 沖縄慰霊の日に普天間閉鎖と辺野古新基地撤回を求める集会** ◆ 18:30~20:30 ◆ 南大塚ホール (JR山手線大塚駅) ◆ 大田昌秀、山城博治ほか ◆ 主催: 沖縄米軍基地問題連絡会 (問: フォーラム平和・人権・環境 03-5289-8222)

▶ **6/25 (土) 米軍再編とかながわの基地** ◆ 12:30~ ◆ 厚木、池子、相模原、横須賀、座間からの報告、ビデオ上映 ◆ 座間市市民健康センター (相武台前駅) ◆ 無料 ◆ 主催: 県民のいのちとくらしを守る共同行動委員会 (045-774-2435)

▶ **6/26 (日) 日韓被爆2世シンポジウム in 広島** ◆ 福山真劫、寺中正樹、中谷悦子、崎山昇、カン・ソンホ、イ・ラジェ、豊永恵三郎、山田美智子 ◆ 広島平和記念資料館 ◆ 全国被爆2世団体連絡協議会、韓国被爆2世の会、原水爆禁止日本国民会議 (03-5289-8224)

▶ **6/30 (木) 教育基本法はどのようにかえられようとしているのか 子どもたちはどうなるのか** ◆ 18:30~ (開場 18:00) ◆ 三宅晶子 (千葉大学教員) ◆ 横浜市開港記念館 1号室 (関内駅10分、日本大通り駅1分) ◆ 問: 「お話を聞き合う会・世話人」会 (090-4413-2415)

▶ **7/1 (金) 話し合うことが罪になる** ◆ 18:30~21:00 ◆ 足立昌勝、小倉利丸、渡辺治、海渡雄一、富山洋子委 ◆ 東京しごと財団 (飯田橋駅7分) ◆ 主催: 共謀罪に反対する市民の集い実行委員会 (問: 日本消費者連盟 03-5155-4765)

▶ **7/2 (土) 女性天皇はいらない! 天皇制はもっといらない! ~7.2 シンポジウム いつまで続けるの? 家父長制~** ◆ 13:30~ ◆ 鄭映恵、鈴木裕子 ◆ 文京区民センター 2A (春日駅・後樂園駅3分、水道橋駅10分) ◆

参: 500円 ◆ 主: 女性と天皇制研究会 (03-3818-7576 午後、<http://www.geocities.jp/jotenken/>)

■ **戦争を考える〈シリーズ21〉今、韓国・北朝鮮の人々とつながるために、私たちができること** ◆ 13:30~ ◆ 太田昌国さん (民族問題研究)、チョウ・ミスさん (ピースボート共同代表) ◆ 国分寺労政会館 (JR中央線国分寺駅下車、南口徒歩5分) ◆ 主催: うちなんちゅの怒りとともに! 三多摩市民の会 (連絡先: 古荘 0436-74-2111)

▶ **7/3 (日) 天皇のサイパン「慰霊」訪問反対! 死者を利用した戦争国家化を許すな! 7.3 討論集会** ◆ 13:30~ ◆ 彦坂諦 (作家) ◆ 文京シビックセンター地下2F 研修室B (地下鉄春日駅・後樂園駅) ◆ 主: 8・15集会実行委員会 (仮称) (連絡先: 03-3368-3110)

★ **毎週月曜日: 辺野古へのボーリング調査を許すな! 防衛庁抗議行動** ◆ 18:30~19:15 ◆ 防衛庁前 ◆ 主催: 辺野古への海上基地建設・ボーリング調査を許さない実行委員会 ◆ 抗議文・要請文などお持ちの方は、お申し出下さい。順番に読み上げて渡しましょう。団体・個人を問いません。

立川反戦ビラ入れ弾圧 報告・全国ツアー

6/25 (土) 14:00~ ◆ さっちゃん ◆ 仙台市民会館 ◆ 問: 070-6954-3156 (皆川)

6/26 (日) 13:00~ ◆ 盛岡市中ノ橋通りプラザおでって・ホール ◆ 主: 岩手連絡会 (no_oppression2004@yahoo.co.jp)

7/2 (土) 18:30~ ◆ 名古屋市女性会館 (名城線東別院駅) ◆ 大西章寛、岡田健一郎 (予) ◆ 参: 500円 ◆ 主: 有事法制反対ピースアクション (052-881-3573)